先生の眼玉に

夢野久作

子供が大ぜい遊んでいるところに雪がふって来ました。

「ヤアイヤアイ　雪がふって来た
雪降れ　ウント降れ
塩になれ　砂糖になれ」

とみんながよろこびました。

「砂糖になったらどうするか」

と大きな声がきこえましたので、ビックリしてその方を見ますと、白い鬚（ひげ）を生やして、白い着物を着て、白い帽子を冠って、長いすきとおった氷柱（つらら）のような杖を持ったお爺さんが立っておりました。

子供達はおどろいてそのお爺さんの顔を見ていますと、お爺さんはニコニコ笑いながらも一度、

「砂糖になったら何にするのか」

と子供たちに聞きました。

「お餅につけてたべる」

と三吉が答えました。

「お婆さんに嘗めさせる」

と忠太郎が言いました。

「お庭の蜜蜂にやる」

と玉子さんが言いました。

お爺さんはさもさも嬉しそうに、

「感心感心。お前たちはみんないい児だ。それじゃ塩になったらどうするかな」

と尋ねました。

「先生の眼玉にすり込んでやる」

と最前からだまっていた悪太郎が答えました。

お爺さんは急に怖い顔になって、

「よしよし。のぞみ通りにしてやるからまっておれ」

と云ううちに消え失せました。

それと一所に、何も見えなくなる程真白に雪がふり出しました。

三吉と玉子と忠太郎の処に降る雪はみんな砂糖でし

たが、悪太郎の処には塩ばかりバラバラと降って、それが眼に入って痛くて堪らなくなりました。

悪太郎は泣きながらおうちへ帰ってしまいました。

底本：「夢野久作全集1」ちくま文庫、筑摩書房
　　1992（平成4）年5月22日第1刷発行
※この作品は初出時に署名「香倶土三鳥（かぐつちみどり）」で発表されたことが解題に記載されています。
入力：柴田卓治
校正：もりみつじゅんじ
2000年4月4日公開
2003年10月24日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、

校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。